

春日若宮
おん祭り



奈良



2008年12月17・18日



散策

其二

春日若宮おん祭とは?

「春日若宮おん祭」について・・・

12月15日～18日までの4日間奈良の1年を締めくくるお祭り「春日若宮おん祭」が行われました。

春日若宮おん祭は1136年から現在まで続く歴史のあるお祭りで、日本最古の文化芸能祭典として「国指定重要無形民俗文化財」に指定されています。

4日間の中で17日は0時の遷幸の儀から23時の遷幸の儀まで1日中お祭りが続きます。

その中でも12時から行われる「お渡り式」がこの春日若宮おん祭のメイン行事となります。

：「お渡り式」とは芸能集団や祭礼に加わる人達が社参する行列の事をいう。

■「日使（ひのつかい）」から始まり、「大名行列（だいみょうぎょうれつ）」まで大きく分けて12種類あり、子供から大人まで幅広い年齢層の人たちが参加し、近鉄奈良駅からJR奈良駅、三条通りと練り歩きます。

この日は周辺の学校も早く終わりとくさんの子供たちも来ていました。奈良市では1年の最後の特別な行事のようです。

奈良に到着し、高速バスを降りた私達はお渡り式出発の場所「県庁前」まで移動しました。移動中はそれほど混雑していなかったのですが、出発直前になるとたくさんの人達が集まり警備の為に警察官もたくさんいました。

最初に見ていた県庁前では、出発直前の舞台裏の様子を見る事ができました。

緊張しているのか、それとも落ちそうで心配なのか、馬の上で強張った顔をしている子供や、まだかまだかと寒さを吹き飛ばしてしまうくらいの元気で出番を待つ人達もいました。

お渡り式ではたくさん的人是もちろん、たくさんの馬も主役となります。出番を待つ馬の中には飾りが風でなびくのが気になり落ち着かず大変そうな場面もありました。

しかし、さすが長い歴史のある大きなお祭りです。



今まで緊張した雰囲気が漂っていたのに、出発するとみんな堂々としていて凄いなと思いました。行列の最後となる大名行列が出るのを見てから、興福寺と猿沢池の間、三条通りを抜けた場所まで移動しました。

こちらは出発の雰囲気とは違って屋台が出ていて、良い香りとともにとても賑やかでした。そして「上三条の交差点を通過しました。」というアナウンスが流れ、先頭の日使が見えてきました。

ここから一の鳥居に入ってすぐ「松の下式」を行ってお旅所へ向かいます。



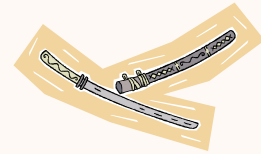


途中では豪華な鞍をつけた「将馬（いさせうま）」や、長さ 5.5 メートルほどもある大型の野太刀、最後の締めくりにふさわしい大名行列は「ヒーヨイヤナー」「ヒーヨイマカセー」「エーヤッコラサノサー」の掛け声に合わせて「見通し」と呼ばれる槍の先に鳥毛をつけた物を人から人へ投げとでも盛り上がり、観客からは拍手がおこりました。

見に来ていた子供の中には大名行列の掛け声をマネして言っていた子がいて、とても可愛かったです。

小さい頃から歴史ある文化に触れることで、次の代にはその子たちが主役となりどんどんと歴史ある文化が伝えられるのだと思いました。

お渡り式から松の下式を終えると、「お旅所祭」が始まります。



■**お旅所^{たびしょ}とは？** 若宮神に向けて供え物や芸能を楽しんでもらう行事をいう。

若宮神は 17 日の 0 時に本殿を出発し、たいまつやお香を持った人たちが清らかにした道を通ってお旅所に来られます。この時には灯りも写真撮影も禁止され御神体は人の目に触れないように周りを取り囲み隠されながら移動されるそうです。

このように春日大社摂社若宮神社からお旅所仮御殿へ来られた若宮神の前で午後 2 時半から午後 10 時半頃まで神楽や田楽、細男、舞楽などの芸能が行われます。

巫女さんによる神楽は華やかだけれど、品があり伴奏や歌に合わせて演じる姿に会場全員が釘付けでした。

その後も楽器や『歌』『舞』によって若宮神、またたくさんの観客を楽しませてくれました。全て終わると、若宮神が来られた時のように若宮神社へお帰りになられお祭りが幕を閉じます。今回のお渡り式、お旅所祭は例年に比べて気温が暖かかったようですが、雨が降り、息が白くなる中でもたくさんの人達にしっかりと伝わり、来年、再来年とこれからもずっと伝わっていくのだと思いました。

徳島ではなかなか触れる機会のない歴史ある芸能を目の前で見ることができ、次の時代に受け継いでいくことのできる奈良。

今回感じた事は、建物や社会の歴史だけではなく、芸能や他にもたくさんの歴史がある奈良はとても奥深い所だと思いました。

まだまだ知らない部分がある奈良をもっと知りたいと思うのと同時に、観光ガイドを見ながら行くのもいいですが、まだ皆の知らない奈良のいい所、新たな歴史を見つけたいと思いました。そしてもう一つ。今回は国立博物館で「特別陳列 おん祭と春日信仰の美術」が行われていました。

博物館へは正倉院展しか来た事がなかったのですが、今回は平日ということもあって今までの博物館とは違う印象を受けました。

正倉院展の賑やかな印象が強い為に本来の博物館の雰囲気忘れかけていた私は入った瞬間気温が低い訳ではないけれど博物館独特のシンとした雰囲気にゾクッとしました。だからと言って落ち着かないという事ではなく、いつもより広々とした空間にはゆっくりと歴史の時間が流れ、現実に戻った時にはあっという間に時間が経っていました。

この不思議な現象を私は奈良に来て初めて体験し、大好きになりました。

今まで正倉院展でしか訪れた事がないという方・・・。

いつもの印象とは全く違う雰囲気で新たな発見ができるかもしれないですよ。

歴史の奈良、新たな奈良、あなただけの奈良を見つけてください。

